難波田城だより

2024冬
102号

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース—　NEWS from NANBATAJO

編集・発行
富士見市立難波田城資料館
令和6年12月1日発行

今号の内容

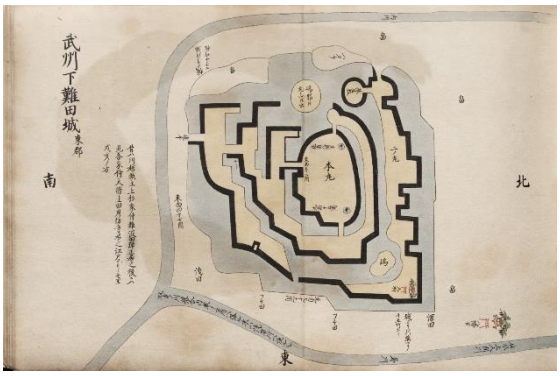
●二つの故郷　●みどころ紹介「旧鈴木家表門」●「ちょこっと体験」ってなあに？
●カマド・羽釜から電気釜へ ～ご飯を炊く道具のうつりかわり～　●冬のイベント予定

二つの故郷

市民学芸員　小山内鏗爾（おさないけんじ）

浪岡城跡

© MChew クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（表示 4.0 国際）
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/



難波田城図『城築規範』（陸奥国弘前津軽家文書）

国文学研究資料館 収蔵歴史アーカイブズデータベース
(https://archives.nijl.ac.jp/G000000200300/data/02852)より

♪　みちのくの　津軽の里は　旨（うま）しかの　リンゴ花咲く
　聳（そび）え立つ　城址（しろあと）暮れて　南朝の　勲（いさお）し想う
この栄えを　心に秘めて　　新しき世の　民と成らばや　♪

私は生まれてから十九の春までの大半を、本州の最北端に位置する青森県の津軽平野で過ごしました。

冒頭の一節は、今は廃校となりましたが、1 年生から 4 年生まで在籍した浪岡（なみおか）小学校の校歌です。

明治調の古色蒼然とした歌詞はチンプンカンプンで…

「三つの苦の？」「ウマシカ(馬鹿)の？」「ハエ(蝿)を心に」「タミとナラ婆や？」

…という風に色々とその意味を考えていたのは、私だけでは無かったはずです。

私が富士見市に転入したのは、故郷津軽を離れてから 15 年ほど過ぎてからでした。それから 30 年余りはいわゆる「埼玉都民」の状態でしたが、退職後に「市民学芸員」として活動させていただき、今では富士見市が人生最長の定住地となりました。

校歌の中の「城址」とは、南北朝時代に南朝の後醍醐（ごだいご）天皇を支えた北畠親房（きたばたけちかふさ）の子孫と伝えられる浪岡北畠氏によって 1460 年代に築城された「浪岡城」のことです。

北畠氏は最盛期の 1500 年代前半には、京都とも盛んに交流し社寺なども建立していたようです。しかし、親族間の争いなどで勢力が衰え、1578 年に、後の津軽藩初代藩主大浦為信（ためのぶ）により滅ぼされ、浪岡城も廃城となりました。

難波田城は「吾妻鏡」に「承久（じょうきゅう）の乱(1221 年)で戦死した金子高範（たかのり）の遺族に恩賞として難波田郷が与えられた」との記述があり、その子孫が「難波田」姓を名乗って 15 世紀後半に築城したとされています。そして後北条氏が豊臣秀吉に滅ぼされた 1590 年に廃城となっており、浪岡城と同時期に築城、廃城も 10 年差で、ほぼ同時代に存在したといえます。

ちなみに桜の名所として有名な「弘前（ひろさき）城」は 2 代目藩主信枚（のぶひら）の代の 1611 年に完成し、津軽藩 10 万石の居城として幕末まで存続しました。

その津軽藩に難波田城の「絵図面」が保存されていたということも、何かの「ご縁」でしょうか？

富士見市と津軽は私の大切な「二つの故郷」です。

市民学芸員のページ　＊このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城　ちょっと拝見　みどころ紹介

古民家シリーズ①「旧鈴木家表門（おもてもん）」

難波田城公園に西門から入ると、まず目に留まるのが旧鈴木家表門です。この建物は江戸時代に市内針ケ谷地区(当時は村)で名主（なぬし）を務めた鈴木家の長屋門でした。詳しい建築年代は不明ですが、建物の造りから明治時代中期に建てられたと考えられています。

また、南側の壁は大壁（おおかべ）という柱の見えない構造、また深い軒先（のきさき）を作り出す造り(船枻（せがい）造り)であるという特徴があります。

長屋門は江戸時代に城下町の武家屋敷の門として形式が整ったとされています(また秀吉の朝鮮出兵の際に長屋門の形式が伝来したという説もあるようです)。

その後、江戸時代中期以降は豪農などの屋敷へ、明治時代に入ると一般農家にも広まったといわれています。また、長屋門という名称は、門の扉口の両側に部屋が連なり長屋のように見えることに由来するといいます。

公園西門側から見た旧鈴木家長屋門

近代に入り農家に普及していった長屋門は、戦前は小作人の住まいや米蔵など、戦後には農機具収納庫、肥料・農薬などの物置、さらに近年では母屋の離れなどにも利用されるようになっています。

現在、難波田城公園では、長屋門の東側の部屋は管理倉庫として、西側は畳部屋を含め機織り機、農具の展示室として使用されています。(田中　聰行（としゆき）)

古民家の中を見るだけでなく触ったり、実際に道具を使ってみたり、ものを作ってみたりして、当時の住人になったような気分に浸ってみてはいかがでしょうか。

体験した思い出や作品をおみやげに。せひ「ちょこっと体験」に参加していってくださいね。

（天野　由利子）

おもしろ・なつかし体験〔81〕

「ちょこっと体験」ってなあに？

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

「ちょこっと体験」は、古民家を中心とした公園施設を活用した自由参加型のさまざまな体験事業です。

その中にはかやぶき屋根の古民家に人々が住んでいた頃の生活を体験できるものが多々あります。

例えば、縄ない、綿繰（わたく）り、はたおり、かざぐるま作り、天びん桶（おけ）を担いでみようなど。加えて季節にあわせたものに鯉のぼり作りや七夕飾り、五右衛門風呂での菖蒲湯なども。

そして毎月第三土曜日には、古民家ならではのいろりを囲む「囲炉裏の日」があります。

開催日は土日祝日の午後 1 時から 3 時まで。所要時間は 20 分程度を一つの目安に。費用は原則として無料です。小さいお子さんからお年寄りまでどなたでも楽しめます。

市の広報、資料館や市の掲示板にある「イベント情報」(画像右)や、ホームページ「ちょこっと体験について」(画像左 QR コードより)に体験内容がでています。

人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

カマド・羽釜から電気釜へ

～ご飯を炊く道具のうつりかわり～

秋季企画展「作って食べる　昔の道具」

開催中の企画展(令和 7 年 1 月 13 日まで)では、約 100 年前～50 年前の食事に関する道具や写真を約 60 点展示しています。食事は自宅で作って食べることが当たり前だった時代から、現在のような食生活（外食、電気冷蔵庫、テーブルとイスの食事など）に変化した経緯も解説しています。今回は、“ご飯を炊く道具の移り変わり”について解説します。

60 年前まではカマドと羽釜で炊いていた

みなさんのお宅ではお米のご飯をどのように炊いていますか？　電気炊飯器（電気釜）かガス炊飯器（ガス釜）を使う家が多いと思います。どちらもスイッチひとつでおいしいご飯を炊くことができます。

国産の自動式電気釜が初めて発売されたのは、昭和 30 年（1955）でした。富士見市域（今の富士見市の範囲）で電気炊飯器などの家電製品が広く使われるようになったのは 1960 年代（昭和 35～44 年）でした。それ以前は土間にあるカマドで薪や藁を燃し、羽釜を使ってご飯を炊いていました。

カマドと羽釜の起源

それでは、カマドと羽釜はいつからあるのでしょうか？　まず、カマドが日本で使われ始めたのは約 1600 年前の古墳時代です。それから平安時代前半までは、甑で米を蒸し、強飯（おこわ）にして食べていました。その後、鉄の釜や鍋で、現在のように「炊く」調理法になりました。

平安時代後半から戦国時代の東日本では、炉（イロリ）と鉄鍋または土鍋でご飯を炊いていたと考えられています。江戸時代からは東日本でも再びカマドを使うようになりました。

なお、第 2 次世界大戦後には、昭和 23 年（1948）にＧＨＱ（連合国総司令部）の指導で始まった「農村の近代化」を目標とする生活改善運動で、煙突付きの「改良カマド」が普及しました。従来式は「原始カマド」と呼ばれました。当市域では昭和 30 年代（1955-1964）に改良カマドへの移行が進みました。

カマドでのご飯炊き／個人提供
1970 年頃、上南畑地区で撮影

一方、鉄の羽釜は古代に都や大寺院で使われ始め、カマドに適した道具として次第に普及し、江戸時代には広く使われました。羽（鍔）がカマドの穴の縁に引っかかるので、安定して炊くことができます。また、羽釜は底と胴の周囲が炎に接するので、中の米と水を高温で一気に炊くことができます。また重い木製の蓋は、熱を逃がさず蒸らすための工夫です。

カマドが使われなくなった理由

では、なぜ 60 年前にカマドが使われなくなったのでしょうか？　いくつかの要因があります。

①カマドでの調理は火加減が難しく、主婦は長時間しゃがんだままの姿勢で、辛い仕事だった。
②カマドのある土間の台所には煙突がなく、煙を浴びる主婦は眼の病気になることもあった。
③明治時代以降、アメリカやヨーロッパの近代文明を採り入れるようになり、古くから続く文化や思想を「古く劣ったもの」と考える人が増えた。
④高度経済成長期（1955～1973 年）に多くの人の収入が増え、家を建て替えたり、台所（キッチン）を造り直すための資金が手に入った。

窓がなく暗い台所から、明るく立ったまま料理ができるキッチンになったのです。　（駒木 敦子）

【主な参考文献】富士見市教育委員会『富士見市史 資料編 7 民俗』(1989)、朝日新聞学芸部『台所から戦後が見える』(朝日新聞社、1995)

＊＊冬のイベント予定＊＊

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

●春季企画展「東上線開通 110 年」

1914 年に東上鉄道(現在の東武東上線)が開通し、同時に鶴瀬駅が開設されました。その後、1977 年にみずほ台駅、1993 年にふじみ野駅が開設されました。今回の企画展では東上線やそれに伴う富士見市域の移り変わりをふり返ります。

会期／3 月 15 日（土)～6 月 8 日(日)
会場／特別展示室

●子ども書初め練習会

とき／12 月 22 日（日）
①午後 1 時 30 分～2 時 30 分　②午後 3 時～4 時
会場／講座室
対象・定員／市内小中学生・各 15 人（申込順）
持ち物／書道セット、書初め用紙、お手本、新聞紙
申込み／12 月 1 日(日)午前 9 時から電話で
指導／硯友(けんゆう)会

●ちょっ蔵市「つきたてのお餅」

とき／12 月 22 日（日）午前 11 時～売切れまで
価格／1 パック 350 円
会場／旧金子家住宅
主催／難波田城公園活用推進協議会

●古文書入門講座

市内に残された江戸時代の古文書を解読しながら、当時の歴史や文化を学びます（全 3 回)。
とき／1 月 19 日（日)・2 月 2 日（日)・2 月 16 日（日）の午後 1 時～3 時
会場／講座室　**講師**／山野健一（当館職員）
定員・対象／16 人(中学生以上)※申込順
　参加費／無料
申込み／1 月 4 日(土)から

●ちょっ蔵市「まゆ玉だんご」

小正月に農作物やマユの豊作を願って飾る「まゆ玉だんご」を作り販売します(おしるこなどに入れて食べられます)。
とき／1 月 26 日（日）　午前 11 時～売切れまで
会場／旧金子家住宅　**価格**／1 パック 250 円
主催／難波田城公園活用推進協議会

●ふるさと体験「古民家で手作り味噌」

手作業の味噌づくりを体験し、自作の味噌(2kg 分)を持ち帰ります。
とき／2 月下旬　　**会場**／旧金子家住宅

※詳細は今後広報「富士見」などでお知らせします。

◆ちょっ蔵(売店)の営業

ちょっ蔵の営業は年内は 12 月 26 日(木)まで、新年は 1 月 11 日(土)からです。また 1，2 月は土、日、祝のみの営業となります。

田舎まんじゅう販売
第 1.3 日曜日 10:30～
※1 月 5 日はお休み

※他にも土日祝午後 1 時から 3 時に開催する「ちょこっと体験」をはじめ、さまざまなイベントがあります。
各イベントの詳細は、広報「富士見」やポスター、チラシ、公式サイトなどでお確かめください。

年末年始の休館のお知らせ

資料館と古民家は 12 月 29 日(日)から 1 月 3 日（金）まで休館です。公園は無休で、午前 9 時から午後 5 時まで開園しています

「難波田城だより」のバックナンバー(カラー版)はこちらから
https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/nanbatajo-dayori.html

難波田城(なんばたじょう) FUJIMI MUNICIPAL MUSEUM
富士見市立難波田城資料館　TEL. 049-253-4664　Fax. 049-253-4665
〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1
https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html
◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始　開館時間／午前 9 時～午後 5 時
◇公園休園日／なし　開園時間／午前 9 時～午後 6 時（4 月～9 月）　午前 9 時～午後 5 時（10 月～3 月）
資料館公式サイト